

熊野市における公共交通に対する住民意識と利用促進に関する基礎的研究

近畿大学工業高等専門学校 非会員 ○下岡 雄一

近畿大学工業高等専門学校 正会員 中平 恭之
豊橋技術科学大学 正会員 廣島 康裕
近畿大学工業高等専門学校 非会員 大和 良介

1. はじめに

2002年の道路運送法の改正に伴い、バス路線の新規参入および退出が地域独占免許交付による許可制度から事前届出制度に緩和された。この需給調整規制の廃止によって、多くの路線バス事業者が経営的判断等による既存の赤字路線からの撤退、あるいは減便などの措置を講じてきた。その結果、既存の路線バス事業者だけでは、生活交通を確保できない地域が増加した。各自治体や地域は、これらの生活交通空白地域の移動手段確保のために、様々な対策を講じてきた。その代表的なものが自治体によって運行されるコミュニティバスである。コミュニティバスは撤退された路線の代替手段のみならず、これまで公共交通の利用が不便であった地域へも運行し、また車両も大型のバスからマイクロバスやタクシーを導入するなど、これまでとは異なる形態をとる事例が多い。

現在、熊野市では既存の路線バス事業者が撤退した路線の代替手段として市自主運行バス（コミュニティバス）を5路線運行している。しかし、これらのコミュニティバスの利用状況は、通勤通学が主であり生活交通としての機能は果たされていない。また、若年人口の減少によって年々利用者は減少傾向にある。本研究では、熊野市が実施した公共交通に対する住民アンケート調査データを用いて、住民の公共交通利用の実態や意識を把握し、過疎地域におけるバス利用促進策検討のための知見を得ることを目的とする。

2. 対象地域の概要

熊野市は三重県の南部に位置し、山と海に囲まれ、温暖多雨な気候と市面積の約88%が森林であることから農林水産業が盛んである。人口は、年々減少傾向にあり2008年11月現在の人口は約2万人、高齢化率35.3%であり、超高齢化の地域となっている。今後も人口の減少および高齢化率の上昇が予想され、特に高齢者の利用を考慮した公共交通の運行形態の構築が急務である。

また、公共交通については、図-1に示すようにJR紀勢本線と路線バスが南北を縦断し、主要施設（駅や病院など）を結ぶようにバス路線網が形成されている。これらの交通機関以外に、タクシーや福祉バス（高齢者を対象に熊野市が無料送迎）などが運行されている。



図-1 熊野市公共交通路線図

3. アンケート調査の概要

アンケート調査は、熊野市によって平成20年11月に熊野市全域を対象として2000世帯を抽出し、郵送配布・郵送回収方式で実施された。主な調査内容は、公共交通の利用実態および公共交通の問題点や交通政策に対する質問のほか、回答者の個人属性、支払意思額算出のための仮想のバス条件下での運行に対する賛否、市内の公共交通に対する意見などである。現時点（平成20年11月）での回収率は45.2%である。

4. アンケート集計結果

熊野市内の公共交通に対する満足度を図-2に示す。

この図より、不満（やや不満と不満）の割合が約47%と高いことがわかる。これは、回答者の最寄りの鉄道駅・バス停までの距離が遠かったり、運行便数が少ないといった理由が考えられる。

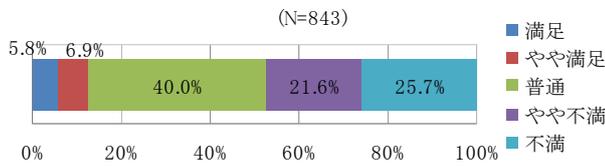


図-2 公共交通に対する満足度

図-3に示すように回答者が自由に使える移動手段（自動車、単車、自転車、その他）を持つ者が82.3%と多くの住民が何らかの移動手段を保有しており、その移動手段を持つ者のうち約82%が自動車を保有していることを把握した。また、移動手段を持たない者の割合は、高齢になるに従って増加していることも確認した（図-4）。

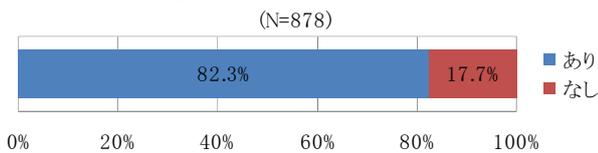


図-3 自由に使える移動手段の有無

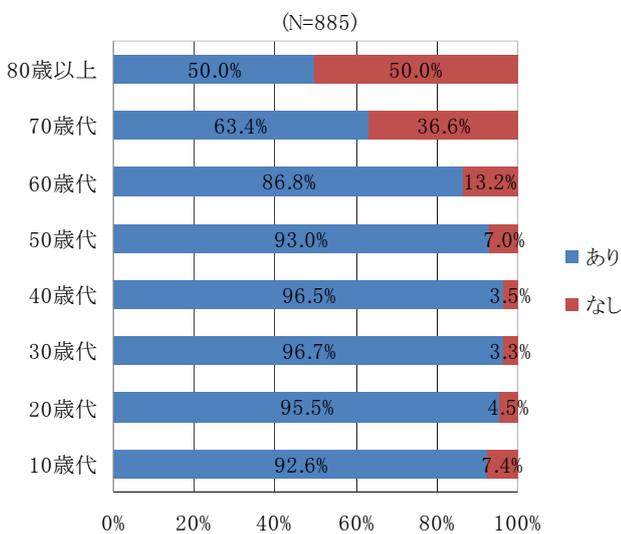


図-4 年齢別移動手段の有無

次に、年齢別に過去1年間の熊野市内の公共交通利用の実態を図-5に示す。若年層や高齢層での利用割合が高いことがわかる。これらの年齢層の者は、通勤・通学や通院、買い物といった日常的に頻繁に移動が伴う利用目的で公共交通機関を利用していることを把握した（図-6、図-7）。また、過去1年間の公共交通非利用割合は、約48%と半数近くの方が利用していな

い実態を確認した。

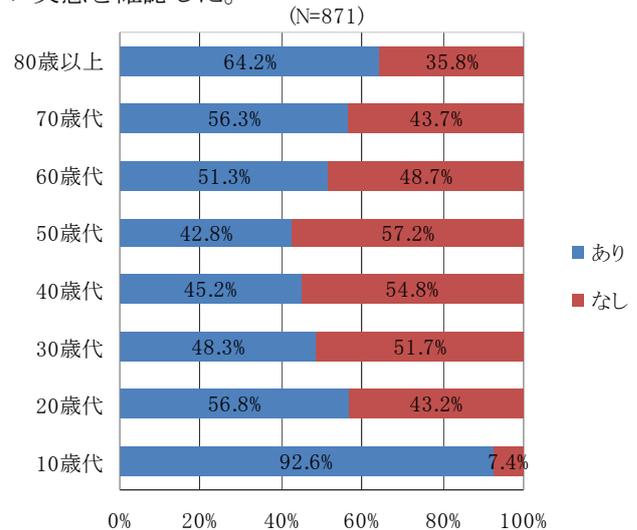


図-5 年齢別過去1年間の熊野市内の公共交通利用

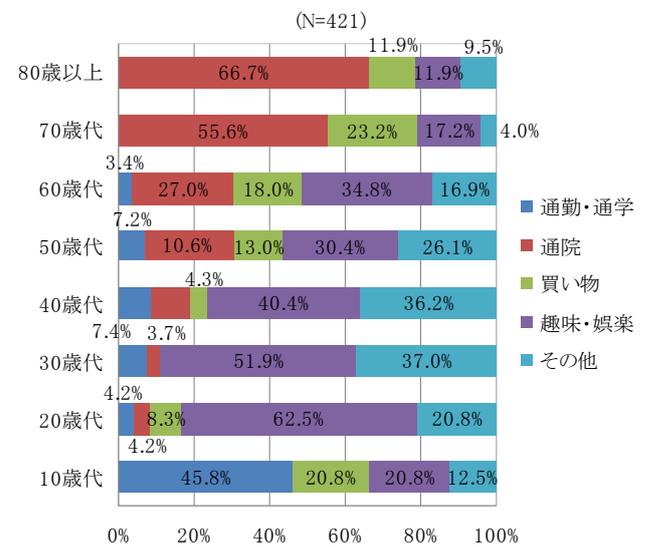


図-6 年齢別利用目的

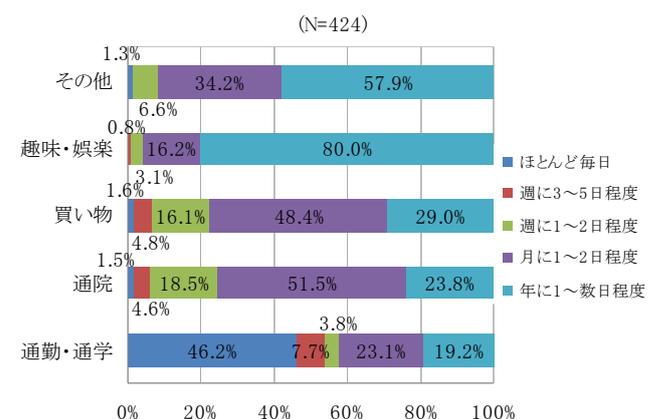


図-7 利用目的別利用頻度

5. おわりに

今後は、アンケート調査の回収を進め、利用の実態や問題点を詳細に把握するとともに、バスの運営に対する市民の支払意思額に関する分析を行う予定である。詳しい内容については、当日発表する。